

桑納川 ナガエツルノゲイトウ生態学習会

10月8日(水)、千葉県八千代市を流れる桑納川^{かんのう}において、環境パートナーシップちば主催による「特定外来生物ナガエツルノゲイトウ」の生態学習会が開催されました。同学習会には、千葉県、千葉市、八千代市、印旛沼土地改良区、(独)水資源機構千葉用水総合管理所、東邦大学及び各環境団体から約30名が参加しました。当日は西廣 淳先生(東邦大学)を始め東邦大学保全生態学研究室が調査しているナガエツルノゲイトウが繁茂する環境条件、繁茂の仕方及びそれに対する効果的な駆除方法の提案等について、中間報告がなされました。その中では、印旛沼周辺で既に広範囲に分布しているナガエツルノゲイトウを全部駆除することは大変困難な状況のため、これからは同植物を如何に増殖及び繁茂させない方策を講じることが必要という報告がなされました。そして、具体的な取組みの一つとして、これまでの地上からの分布調査に加え、定期的にラジコンヘリコプターを使った空中写真撮影を通じて分布状況を詳細に把握し、どのポイントを駆除すれば効果的であるかなどの対策を検討していくなどの提案がありました。また、穏やかな秋の日和のもと、道すがら「アレチウリ」や5mまで背丈のある「オオブタクサ」という特定外来植物の説明を受けたり、桑納川に自ら入り実態調査していただいた西廣先生と参加者間ではナガエツルノゲイトウについてより具体的な意見交換が行われるとともに、当機構からは今回の台風18号による大和田機場の排水運転状況及びそれに係るナガエツルノゲイトウの漂着状況について説明するなどして、瞬く間に時間が過ぎていきました。

引き続き、同管理所は、各関係機関とナガエツルノゲイトウに関する情報共有を図るとともに、連携してその方策を模索し解決に向けて取り組んでいきます。



■西廣先生からの調査報告



■繁茂するナガエツルノゲイトウ
(新川)



■背丈の2倍以上のオオブタクサ



■身体を張って調査する西廣先生(桑納川)



■参加者間で意見交換



■触ると怪我するアレチウリ

※ナガエツルノゲイトウ(特定外来植物)

南アメリカ原産の外来種で、水辺の湿った環境に生える多年草である。在来種の植物を駆逐したり水面上に繁茂することで水流を停滞させる。また、農業用水のポンプがナガエツルノゲイトウを吸い込むことでスクリーンに目詰まりが生じポンプ運転に支障を来す。